

わたくしが考える「ふるさと」熊本

株式会社 三和測量設計社

平林 昌洋

1. はじめに

私は、熊本で生まれ育ち、三十数年この地で暮らしてきました。この土地が大好きで、大学を卒業し就職を考える時点でも、他の土地に行くことは考えませんでした。

土木技術者として現在まで約十年、微力ながら地域の役に立てればとがんばってきましたが、昨今の社会資本整備に関する逆風とも言える厳しい環境の中で、未来に向けてどのような熊本をイメージするのか、そして、様々な計画や事業に携わるなかで自分なりにどのようなビジョンを持って「ふるさと」熊本をかたちづくるお手伝いができるのか、いくつか考えてみたいと思います。

2. 熊本という土地

私は、ずっと熊本に住んでいましたので、外から見た比較などはできませんが、自分の認識している熊本は、九州の中心に位置し、世界的に稀有なカルデラである阿蘇山があり、球磨川に代表される急峻な河川と地形、特徴的な海洋棚を備えた有明海などがあり、学術的にも興味を引く土地だと思います。

熊本城、通潤橋、天草五橋など、有名で貴重な建造物もあります。特に熊本城は、小さいころから毎日のように眺め、何度も写生した馴染み深いものです。

全国的に見れば農林畜産業が盛んな県ですが、他方半導体の生産量が多く、日本のシリコンバレーとも呼ばれています。ただ、平均賃金は全国では下位に位置し、職場環境のアンケートでもあまり芳しくないようです。

寒暖が激しく、火山性の地震もよく起きます。また、台風や集中豪雨にもしばしば襲われ、急峻な地形が多いことから土砂災害がたびたび起きているようです。昨年の水俣宝川内川の土石流はよく知られていると思います。私の家内の里が水俣で、知人が犠牲になったと聞き人事ではなく感じ、実際に現場を見にも行きました。

このような特徴のある熊本という土地ですが、この、私のふるさとは、これからどのように発展していくのか、そのためにどのようにすべきか、さらに自分にできることはなにか、思いを馳せることは自分の楽しみでもあります。

3. 熊本といえば「水」

熊本は、一部を除いて水に恵まれ、特に熊本市周辺は、全国でもめずらしく上水道をすべて地下水でまかなっているそうです。つまり、天然のミネラルウォーターが、蛇口を捻ると手に入るというわけです。これはすばらしいことだと思いませんか？

そして、同時に自分達はとても幸せな環境に置かれているということを改めて感じます。例えば旅行などで他県や外国等に出かけたときに、このことを強く認識したことを思い出します。

以前轟水源を訪れたとき、古くから水源地の水資源を利用するための施設が構築され

ていることを案内板で知り、改めて熊本の水資源の豊かさと、先人たちの知恵と技術に頭が下がります。

熊本という土地の特徴や地質によってもたらされたこの恩恵ですが、聞くところによると近年の土地環境の変化で地下水量が激減しているということで、非常に心配になります。

一部に、冬季の田の湛水による地下水の涵養など対策が行われています。さらに、例えば、歩道整備に透水性舗装、雨水の処理に浸透ますを利用し、また、コンクリートで固められた河川環境を、治水機能を保ちながら自然により近づけるような改修を行うなど、少しずつでも環境、特に「水」に対する配慮を考えていければと思います。

雨水・下水・用排水・河川・海と、ばらばらに計画されてきた水に関する社会資本整備をもっと総合的に進めていくことも有効であろうと思います。

川辺川ダムについて、様々な論争が行われていますが、事業ありきではない治水・利水・環境・地域生活に深く配慮した結論が出ることを希望してやみません。

私は、これからの社会資本とは、地域の持つ特性を財産として、そこに住む人々が共有できるように整備していきたいと思います。

4．国づくり熊本づくりに対して思うこと

熊本だけでなく、日本という国は、文化の性質上これまで木材や紙などで家屋を造り、石材でインフラを整備してきました。道路舗装は少なく、古くから残存する構造物といえば石造りのものがほとんどです。

熊本では加藤清正が土木事業に造詣が深く、治水、灌漑設備等現在でも立派に利用されているものがいくつもあります。石造りの構造物も盛んに造られていたようで、腕の良い職人が数多く活躍していたらしく、なんとなくうれしく感じました。

例えば欧州など石やレンガの文化を持つ国々は、数百年も前に整備された道路や建造物が数多く現存し、現役で活躍しています。これらの国々は歴史的に社会資本が積み重ねられており、日本とはかなり状況が違い比較にはならないようです。

経済力では世界第二位の地位を築いた日本ですが、欧米の水準に追いつこうと高度経済成長期を頂点とした性急な社会資本整備を行ってきたことの綻びが今現出しているようです。国家・地方の財政の悪化、社会資本ストックの劣化、維持管理コストの増大などです。強く留意しておく必要があります。

ここ最近、熊本で行われている大きなプロジェクトとして、新幹線・高速道路の整備が行われています。個人的な意見ですが、新幹線の必要性は私には感じられません。道路の新設は少ないようですが、高速道路の規格や、林道・農道の整備では、早急なローカルルールを導入がコスト縮減に有効だと思います。仕様規定での設計から性能規定での設計に転換を図るために、我々技術者もますますの精進が必要になるでしょう。

ただ、防災対策や全国平均を下回っている下水道の整備、地下水の涵養を含む自然環境の保全など、熊本の土地柄を守り、生活環境の向上のために必要なことも多々あると思います。特に「ユニバーサルデザイン」は近年の熊本県のキーワードとして、あらゆる人にやさしい街づくりを目指しており、推進するべきだと思います。

財政健全化のため減少した公共投資財源をより効率よく地域の生活環境の改善に振り向けるため、透明で説明責任を果たし、無駄のない計画に基づく行政が求められていますが、そのなかで、国の構造改革という政策の一環として道路公団の民営化や公共投資の削減が行われています。

また、我々の業務にも深くかかわると思われる行政の変革について、三位一体の改革という方針で協議が続けられていますが、各組織の利益・権限ではなく、無駄のない、エンドユーザーや地域の住民が幸せを感じることができるような結論を出してほしいものです。

「弱肉強食」を是とした政策が推し進められていますが、私は日本にはなじまないと思います。すでに整備の進んだ都市の立場で、財政上の観点から社会資本整備の縮小が既定の方針となっており、国全体を見渡した感覚と、地方の実情に対する無理解の解消を訴えていくことも必要になるでしょう。特に高速道路など、国の動脈をどう配するかという重要な課題は、採算性だけで判断するような性格のものではないように思えます。

ただし、我々も、まず目の前の自らが携わる業務から、必要性、有効性、経済性、透明性、合意形成などエンドユーザーの多様化した要求を満たすよう、尽力していかねばならないでしょう。

5. おわりに

私にも二人の子供がいますが、この子供達が成人する頃、この日本、熊本はどうなっているでしょうか。いまよりももっと暮らしにくい世の中になるのではないかと心配ですし、さらに、その子供たちの時代は想像もつきません。

我々は、社会資本の整備という仕事に携わっています。大変な仕事ですし、とりまく労働環境、社会環境は悪化していると言っていいでしょう。

しかし、孫子の時代のふるさとを想像しつつ、いかにしてよりよいものを残していくか、真剣に考えながら仕事をしていきたいと思えます。

- ・無駄のない安全で機能的な交通システム。
- ・従来の自然環境に回帰していきたい水環境。
- ・生活環境を災害から守り、ハード対策だけでなくソフト対策も含めた防災システムの整備。
- ・環境対策とともに生活の質的向上を図る電気・通信・上下水道などのライフライン整備。

さまざまな業務それぞれに課題は山積しています。コストと要望をトレードオフの関係にしまわせずに、多様な問題をバランスよく解決し、最適な社会資本整備のためにチャレンジする気持ちを持ちつづけて行こうと思えます。

自然が豊富で緑も多く、水がおいしく、新鮮で質のよい野菜や魚介類、そしておいしいお肉が近くで手に入る熊本の生活環境は、お金では代えられない豊かな財産です。

これを子や孫にきちんと相続する責任が我々にはあります。

平成 16 年 9 月 1 7 日 提出